

精華町立小中学校個別学習支援サービス業務機能要件一覧表

		No	要件	必須	回答	備考	
全体	システム	1	動作環境 <タブレットコンピュータ> ア 基本ソフト:iPadOS 18 以上 イ ブラウザ:Safari 又はGoogle Chrome ウ 利用方式:Web方式が望ましい(サービス利用のショートカットを準備するなどにより利用可能であること)。 <パソコン> ア 基本ソフト:Windows11Pro イ ブラウザ:Google Chrome又はMicrosoft Edge ウ 利用方式:Web方式が望ましい(サービス利用のショートカットを準備するなどにより利用可能であること)。	○			
		2	アカウント 本町が既に教員及び児童生徒に作成しているOffice365 アカウントと連携し、シングルサインオンができるように対応すること。シングルサインオンが実現できない場合は、児童生徒がデジタルドリルへ簡易にログインできる方法を提案すること。				
		3	名簿個別登録編集 使用する教員、児童・生徒の登録を一人一人個別に変更できる				
		4	転入生登録可能 転出者のアカウントを修正できる				
		5	名簿一括登録 WEB管理画面をもち、CSVファイルまたはエクセル(xlsx形式)ファイルによるユーザーID等を一括登録ができること。	○			
		6	クラウド サーバを必要とせず、インターネット回線に接続さえできれば、どこからでも利用できること。	○			
		7	システム 複数パッケージでも可とするが、すべての機能については、同一アカウントで管理できること。				
	操作性	8	マルチ入力デバイス対応 タッチに対応しており、タッチ、ペン、キーボードで操作可能	○			
		9	OS間のデータ互換性 クラウド上へ保存したデータを異なる端末やOSから接続しても扱うことができる	○			
個別学習支援サービス	基本	教材	10	教科書準拠 「ドリル教材」に収録されている教材は文部科学省学習指導要領に準拠し、本町が採用する教科書に対応すること。	○		
			11	教材と検索 「ドリル」に収録されている教材は、小学校版で1～6年生の国・算、3～6年生の理・社・英の教科書単元に対応し、本町が採用する教科書内容に沿って検索ができること。			
			12	教材と検索 「ドリル」に収録されている教材は、中学校版で1～3年生の国・数・理・社・英の教科書単元に対応し、本町が採用する教科書内容に沿って検索ができること。			
			13	教材と検索 児童生徒は、当該学年以外(全9学年分)の内容も検索できる。	○		
			14	問題数 本町が身に付けさせたい資質・能力を身に付けるために必要な問題数(50,000問以上)を有すること。	○		
			15	問題数 単元、習熟度に応じた問題を出題できる問題を複数(4問以上)確保すること。	○		

精華町立小中学校個別学習支援サービス業務機能要件一覧表

		No	要件	必須	回答	備考		
		16	問題分類	目的や利用場面に応じた問題及びグループが搭載されていること。(各学期で学習した単元内容を復習できる長期休暇用ドリル、単語・用語の暗記や基本計算を習得できる暗記計算ドリル、中学1年生から取り組める高校入試問題ドリル、レベル別定期テスト対策ドリル等)				
		17	習得する力	「ドリル」に収録されている教材は、基礎基本力の習得をねらいとした「ドリル」、発展的な力の習得をねらいとした「ドリル」の2タイプを収録すること。				
		18	単元確認テスト機能	単元確認できるデジタルテスト(CBT : Computer Based Testingの略)機能を保有すること。				
		19	動画コンテンツ	動画コンテンツを効果的に利用できること。				
	児童・生徒の活用	授業場面	20	モチベーションを向上のための仕掛け	児童生徒の解答状況に応じてメダルやコイン等の報酬付与によるモチベーションを向上させる仕掛けを有すること。			
			21	自動採点(選択)	「ドリル」では、児童生徒が解答した内容に対して自動採点を行うことができること。	○		
			22	自動採点(手書き)	「ドリル」での手書き入力問題では、英字、数字のほか、各種数式記号を含む数式(文字列)の自動採点ができること。			
			23	自動採点(手書き)	単位付きの解答を自動採点できること。			
			24	自動採点(手書き)	漢字問題では、児童生徒が手書きで入力ができるうえ、その解答を字形や筆順を認識する機能を有すること。			
			25	正答状況に合わせた問題提供	児童生徒の正答状況に合わせて、習熟度に応じた学習課題等を自動で提供し、誘導する仕組みを有すること。			
			26	不正解状況に合わせた問題提供	問題に不正解した際、不正解した問題が解けるようになるための、子どもの習熟度に合わせてフォロー問題、類題を出題。また、段階的な知識定着を促すため、学習の流れに合わせた問題構成で出題するとともに、子どもの習熟度に合わせて適切なタイミングで学習内容の解説を表示すること。			
			27	自動的な誘導	子供がどの程度取り組みを行えばよいかの目安を示すこと。また、次にどの問題に取り組めばよいかを自動的に示し、誘導できるようにすること。			
28	再開後の機能	まちがえた問題だけを再度取り組める機能または、類似の問題に取り組める機能を有すること。また、取り組み途中で中断しても、続きから始めることができる機能を有すること。	○					

精華町立小中学校個別学習支援サービス業務機能要件一覧表

		No	要件	必須	回答	備考
		29	学習履歴確認 児童生徒は学習履歴確認画面から、取り組んだ「ドリル」の正誤状況や正答率などの情報が一覧で確認できること。			
	教員の活用	30	教員による問題配信 教員が、任意の問題を選択し、宿題として配信する仕組みを有すること。このとき、クラス内に一斉、もしくは個人別に配信を行うことができること。	○		
		31	教員による回答状況の確認 教員用アカウントから、児童・回答結果を、個別・学年別・クラス別で確認できること。	○		
		32	取組状況の把握 教員が、子供の取り組む状況をリアルタイムに把握でき、机間指導等に生かすことができる仕組みを有すること。			
		33	評価への活用 子供の学習成果物(取り組んだ問題、取り組んだ数、取り組んだ時間、正答率など)は、子供別の学習成果物確認画面に一元的に整理され、普段の指導や学期を通じた評価等に活用することができること。			
		34	ログデータの収集 提供される教材の活用ログデータを収集できる仕組みがあること。			
		設定	35	表示 ログインした学年に応じて、メニューを平仮名表示できること。		
	36		学齢に応じた漢字の使用 学齢に応じて配当漢字に配慮し、画面表示を行う機能があること。	○		
	37		見やすい画面 文字の大きさや、画面のデザイン、回答欄の拡大など、子供自身が見やすいようにカスタムを行うことができること。			
	38		機能 使用中およびデジタルテスト中に、別画面への遷移及び同時別画面表示を検知できること。			
機能 その他	更新	40	バージョンアップ 教科書改訂に際しては、教科書単元データ更新について、契約期間中では無償バージョンアップ対応を行うこと。	○		
		41	適切な教材の更新 契約期間内に採択教科書変更、指導要領改訂が行われた場合でも、最適な教材が使えるよう更新を無償で行うこと。また、その仕組みを持つこと。	○		
	登録・配信	42	問題の登録 教員自身で、問題を登録できる仕組みがあること。			
43		問題の配信 問題配信に際しては、単元をまたいだ該当範囲、取組時間を設定し、子供のデジタルドリル教材の学習状況に応じた課題を自動生成して配信する機能を有すること。				

標準の機能としてある場合は○、カスタマイズまたはオプションで実装できる場合は△、機能を有していない場合は×としてください。なお、必須機能において△を付けた場合は、その金額は参考見積りに反映されていること。